

学校名	佐賀市立諸富南小学校
1 前年度 評価結果の概要	・教職員の資質向上を図り、日々の授業改善や校内研修を軸にUDを意識した人的環境や学習環境を整え、子どもたちが安心して学べるように教職員の資質向上を図る。 ・「ふるさとを愛する」ことにつながる学習活動の充実を図る。コミュニティスクールを機能させ、さらに学習の目的を保護者や地域と共有し、「ふるさとを愛する気持ち」を醸成していく。 ・児童理解のための研修やケース会議を行い、適切な児童支援と個性の伸長を図る。教育相談を充実させることでいじめの早期発見・早期解決につなげたり、児童一人一人に目標を持たせて児童のよさや可能性を伸ばす。
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、「夢」「ふれあい」「感動」のなかで、生き生きと輝く子どもの育成
3 本年度の重点目標	・子どものwell-beingの実現に向け、自己存在感、共感的な人間関係、自己決定、安心・安全を視点においた授業改善を目指す。 ・教育相談の充実や開発的生徒指導に取り組み、児童の個性を認め、よさや可能性を伸ばす。 ・読書活動や一人一台端末の活用を行い、児童に課題設定力、公的対話力、協働解決力を向上させる。 ・家庭や地域との連携を生かした教育活動の企画力、コミュニケーション力、情報発信力を高める。

4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上 【やる気の子育成部】	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境づくりをしている教師95％以上 ○「学習中、友達と話し合う活動を行い、その考えを使って課題を解決することができていると思う」と回答した児童85％以上 ○「授業で『分かった』『できた』と実感することがある。」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合85％以上	・授業のユニバーサルデザインや教室環境のユニバーサルデザイン化について校内研修等により取り組みの促進を図る。 ・「めあて」から「まとめ」までの流れを意識した授業計画、板書作りを行う。 ・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol. 2」を共通実践する。
●心の教育 【やさしい子育成部】	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業を年1回以上保護者に公開する。 ○「ありがとうの木」の取り組みで、カードを毎学期に1枚以上書くことができた児童90％以上 ○「友達に優しくしたり、優しくしてもらって嬉しかったりしたことがある」と感じる児童80％以上	・6月や12月のフリー参観や授業参観時に全学級道徳の公開する。 ・学級活動、委員会活動、学校行事において児童に役割をもたせ、承認する場を取り入れる。 ・「ありがとうの木」活動で、カードに書く内容の具体例を提示したり、放送で読むカードの内容を精選したりすることで、より自己肯定感を高める活動内容にしていく。 ・児童の自己肯定感を高めるきっかけになるよう、「いじめ・いのち」のアンケート欄に「自分のいいところを書く」の欄を設ける。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめを受けたり、いじめたりすることなく、楽しい学校生活を送ることができた」と実感できている児童が80％以上	・差別を許さない学校風土を醸成するため、毎学期始業式のいじめゼロ宣言の実施、人権標語の掲示などを行う。 ・毎月、児童アンケート調査を行い、いじめの早期発見に努める。調査結果については、生徒指導連絡会や連絡会で全職員で共通理解を図り、対応を協議する。 ・校内研修等により、いじめの定義を確認し、対応方法について学ぶ。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80％以上 ●◎小学校卒業後の自らの夢や目標をもち、その実現に向けて頑張ろうと思う気持ちを持つことができる児童が80％以上	・学校行事や各教科等を通し、自分の夢や目標を持つことのできる機会を設ける。 ・6年生は卒業に向けて、夢や目標を自ら考え、語ることができる場面を設ける。
●健康・体づくり 【元気な子育成部】	○運動習慣の改善や定着化	○体を動かす時間が1週間で100分以上の児童80％以上	・熱中症等、懸念することがなければ積極的に外遊びを奨励し、一日の運動時間を最低20分間は確保する（始業前、業間休み、昼休み、放課後等）。 ・体力を高めるための楽しい運動の紹介をしたり体育の授業で実践したりする。 ・体を動かすイベント等を委員会活動の一環で行い、多くの児童が体を動かす機会を設ける。
	●望ましい生活習慣の形成	●「やる気の子育成部」「やさしい子育成部」の計画に基づき、共通認識のもとに全校で統一した指導を行い、「生活指導四本柱」の各柱の定着率85％以上 ●「早寝、早起き、朝ご飯」の定着を図り、児童や家庭にもその協力を呼びかけ、達成率80％以上 ●家庭学習時間やネット・ゲーム機使用の時間について、把握できていると回答する保護者が80％以上	・「生活指導四本柱」について毎朝の全校放送を行い、児童に習慣化を促す。 ・重点目標達成委員会において取組状況を確認し、指導の徹底を図る。具体的な取組は各育成部で検討提案する。 ・家庭学習ががんばり週間を定期的に行い、家庭からの協力を得ながら規則正しい生活を意識させる。長期休業には「生活チェック表」で毎日の計画をたてさせ、それに沿って生活させるようにする。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・働き方改革に関する研修を学期に1回行い、意識改革を図る。 ・「定時退勤日」を水曜と金曜の選択とし推進する。 ・1ヶ月の時間外在勤時間の総計の記録を各自がグラフ化する。 ・会議等の精選を行い、職員の放課後の業務時間を確保する。 ・長期休業中や放課後の業務時間を集中的に確保し、成績評価を計画的に行う。
	○業務改善意識の向上	○日常の業務に関わる課題を、職員自らから見つけ、課題を可視化し、ひとり1改善を図る。	・学校行事や日常の業務についての課題を、学期ごとに可視化・共有し、改善を図る。
●特別支援教育の充実	○支援が必要な児童に対する理解と支援の在り方	○「学校が楽しい」と感じる児童90％以上 ○通常の学習や生活指導において、合理的配慮を行っていると回答できる職員が95％以上	・担任や級外、生活支援員、特別支援教育支援員同士の情報共有の場を確保し、児童理解に努める。 ・児童の困り感に寄り添い、早期発見、早期対応を行う。 ・「職員連絡会」等で見守りたい児童の状況について報告し、全職員の共通理解を図る。 ・月1回の「生徒指導協議会」では、児童への適切なサポートについて協議する。 ・スクールカウンセラー、巡回相談訪問、ケース会議を通して、支援方法を探るとともにミニ研修会を実施し特別支援に対する啓発活動を行う。 ・個別の支援計画をもとに、継続的な支援を図る。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○教職員の資質向上	○教員の専門性と意思の向上	○全職員がユニバーサルデザインを取り入れた学習環境づくり行い、一人1回以上の授業公開を行う。 ○タブレットを用いた授業について、一人1事例の紹介を行う。	・確かな学力の定着と向上にむけて「できるようになる授業の実践」「振り返りの場の設定と充実」を校内研修等を通して実践化を図る。 ・校内研究で、タブレットを用いた授業実践を紹介を年間計画に組み込み、個々の実践につなげる。
○家庭や地域との連携を生かした教育活動の醸成	○コミュニティスクールとして、教職員やPTAの機運を醸成する。	○年間を通して、職員とPTAの研修会を2回以上行う。 ○各学年の年間指導計画をゲストティーチャーや地域支援の観点から見直す。	・教頭が窓口になり、諸富校区3校に1名配置された地域教育コーディネーターと連携し、「コミュニティスクール」について研修会を行う。 ・各学年毎に、ゲストティーチャーやPTA・地域ボランティアの協力依頼計画表を作成する。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育			
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・		